お産＆子育てを支える会
事業完了報告

～共同助産所ができるまでと見えてきたこと～

１．基本情報

事業名	滋賀県におけるバースセンター開設へのチャレンジ！
資金分配団体名	公益財団法人信頼資本財団
実行団体名	お産＆子育てを支える会
設立年月日	1997年4月1日
新型コロナウィルス対応緊急支援助成有無	無
提出日	2022年3月10日

お産＆子育てを支える会について

お産&子育てを支える会は、妊娠、出産、産後ケア、子育てのサポートに関する事業、周産期にある母子・家族および女性のライフサイクルに関する医療･保健･福祉の増進に資する事業、地域社会へ貢献する事業、情報・資料収集およびこれらの情報を提供する事業を行い、地域における母子保健事業に寄与することを目的とする。日々の助産業務の中で、困難を抱えているにもかかわらず行政サービスに繋がらず、孤立し、悩みながら子育てをしている母親や家族に遭遇することがある。このような人々の脱・孤立を図るために妊娠から分娩･子育て支援、 居場所(シェルター)、またサポーターの活動拠点として、滋賀県初の民設民営のバースセンターを設立した。女性一人一人に寄り添い、女性自身が自信をもって出産、育児ができるよう継続ケアを実践している。

２．事業内容と成果の概要

実施時期	2020年4月1日～2022年2月28日
対象地域	滋賀県全域
事業対象者	滋賀県の妊産婦、子育て中の母親とその児
総事業費（うち評価関連経費）	¥12,500,000（評価関連　¥600,000）
社会課題	母子を取り巻く環境に課題は多い。母親の8割が子育てに負担や不安を感じている。虐待死の被害者は0歳児、加害者は実 母が最多と言った報告がある。妊娠中から出産・子育ての経過の中で、産後うつにみられる精神疾患、孤立化し、引きこもり、自殺、DVなどの暴力、離婚、ひとり親家庭となる事も珍 しくはない。症状が潜在化・顕在化している妊産婦を妊娠早期から発見し、継続的かつ長期 的に支援することが求められている。

活動結果について

- 1－1．バースセンターの設立

2021年1月OSANKO（共同助産所　お産子の家）OPEN

見学＆妊婦相談、妊婦健診、助産所での出産

自宅での出産、産後ケア、母乳相談をスタート

＜2021.1～2022.2＞

出産件数：６

相談件数：２３

継続ケア件数：１０

- 1－2．登録助産師の拡大（サポーター含む）

登録助産師　６名→１１名に拡大

（病院勤務助産師、学生時代の性教育受講者等）

- ２－１.ステークホルダーの拡大

共同助産所の連携医療機関として滋賀大学医学部附属病院と契約締結。東近江市、甲賀市、彦根市の産後ケア事業を受託。今春には米原市、日野町、守山市、近江八幡市、長浜市とも提携が拡大する予定。

- ２-２．妊婦健康診査

14回／人行う健康診査では、血圧測定尿検査、胎児心音聴取、エコーなどを活用。マンツーマンで時間をかけられるのが特徴

- ２-３．産前産後の保健相談開始

産み方や産む場所、育児や母乳相談など女性に寄り添う相談を実施

出張相談を行う

- ３-１.出産・子育てに関する啓発活動

産前産後の女性やその関係者を対象に下記の啓発事業を実施

コロナ禍により、参加者を制限するなどの対応

太郎坊宮へ登る会　１０回・５０人

ヨガ教室　４回・１８人

産前産後セルフ整体ヨガ　７回・５２人

映画上映会（オーガズミックバース）　８回・３５人

お産塾　１０回・８４人

お産子マミーハウス　８回・８７人

バランスボール（キッズ含む）　２３回・１０９人

ベビーマッサージ　２５回・１５２人

ハローベビー教室　８回・３４人

▶ 4-1.カリキュラムの作成及び実施

第1回	第2回*1	第3回*1	第4回*2
2019年12月1日（日） 10:00～11:00／13:00～14:00 場所：Gネット滋賀・婦人会館	2020年1月18日（土） 10:00～16:00 場所：ぐるりの家	2月15日（土） 10:00～16:00 場所：ぐるりの家	4月18日（土） 10:00～16:00 場所：Gネット滋賀
■Gネットフェスタ 2019いいお産の日in滋賀 『キセキ･ずっと･ぎゅっと―ママたちを地域で支える助産師―』 【午前】Ⅰ部／10:00～11:00 場所：婦人会館（同敷地） ・お産＆子育を支える会25周年活動報告DVD上映 ・ディスカッション 【午後】Ⅱ部／13:00～14:00 場所：本館･大ホール ・活動報告DVD上映 ・寸劇 What is a Midwaife? 日本妊産婦支援協議会	■『助産所経営と管理①』 【午前】10:00～12:30 ・開業助産師としての理念 講師１：田島 惠子 氏 めぐみ助産院 院長 【午後】13:30～16:00 ・開業届けと嘱託医契約 ・開業の準備と原則 ・包括的指示書 ・産科医療保障制度等 講師２：堀尾 満代 氏 うたな助産所 所長	■事例から学ぶ① 『こんなとき開業助産師はどうする?!―助産師の判断と対応』 【午前】10:00～12:30 ・妊娠期～分娩期事例 【事例提供】お産＆子育て ■『母乳育児支援から 子育て支援へ1』 【午後】13:30～16:00 ・びわこおっぱい塾 ・母乳育児支援の原則 ・事例検討／分娩前後ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ 講師3：荒川 育美 氏 あらかわ助産院 院長	■開業助産師の真髄 『助産ケアを探求しよう』 【午前】10:00～12:00 「妊娠期からの関わり」 講師4：赤塚 庸子 氏 ゆりかご助産院 院長 一般社団法人岐阜県助産師会 助産所部会長 【午後】13:30～15:30 「胎児と新生児の成長発達を促す助産ケア」 講師5：田口 眞弓 氏 もりあね助産院 院長 公益社団法人日本助産師会 副会長 主催：お産＆子育てを支える会 共催：ルネサンスの会
参加者50人	参加者7人	参加者20人	コロナ中止

第5回	第6回[*1]	第7回	第8回
6月20日（土） 10:00～16:00 場所：ぐるりの家	8月1日（土） 10:00～16:00 場所：ぐるりの家	10月18日（日） 10:00～16:00 場所：ぐるりの家	12月12日（土） 10:00～16:00 場所：ぐるりの家
■事例から学ぶ② 『こんなとき開業助産師はどうする?!―助産師の判断と対応』 【午前】10:00～12:30 ・妊娠期～分娩期事例 ・産後事例 【事例提供者】お産＆子育て ■『助産所経営と管理②』 助産所経営と税務管理 【午前】13:30～16:00 ・助産所経営と経理 講師7：川村 卓也 あおば総合会計 税理士･行政書士	■『母乳育児支援から 子育て支援へ2』 【午後】10:00～12:30 ・母乳育児支援の原則 ・事例検討／分娩前後ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ 講師6：渡邉 美也子 氏 ﾏﾏ&ﾍﾞﾋﾞｰ相談室ｸﾞﾗｼｱｽ 室長 ■『妊産婦のメンタルと 産後ケア』 【午後】13:30～16:00 ・社会的ハイリスク事例 ・社会資源の活用と多職種連携 講師8：山中 美穂子 氏 野村産婦人科 まごころ助産院	■『地域における継続ケアと 医療機関との連携』 【午前】10:00～12:30 ・新生児科医師の立場から 退院後の新生児乳児への対応 講師9：橋本和廣 氏 はしもと赤ちゃんｷｯｽﾞｸﾘﾆｯｸ 院長／小児科医師 【午後】13:30～16:00 ・産科医師の立場から ハイリスク妊産婦の連携 講師10：産科医師 （交渉中）	■『集まろう！助産師 The World Needs Midwives Now More Than Ever』 【午前】10:00～12:00 ・女性から学ぶ継続ケア ゲスト招聘（交渉中） 【午後】12:00～ 懇親会･持ち寄りパーティー 14:30～15:40 ■開業助産師として ・有床助産所 ・無床助産所／近傍助産所 ・自宅／サポート助産師 15:40～16:00 ・研修修了式 自由解散
参加者19人	参加者13人	参加者19人	参加者6人

３．短期アウトカム分析

①事業ターゲットである妊産婦、産後の女性にとって繋がれる機会を地域に生み出せたか

- 共同助産所が２０２１年１月にオープンし、HP開設、SNSでの情報発信などを行うことに加え、リーフレットを作成し関係施設に配置して頂くことにより、下記のとおり多くの女性とつながることができた。

〇継続ケア及び分娩者　　８名（アンケート回答７名）

〇産後ケア事業利用者　　７名（アンケート回答７名）

〇イベント参加者　　妊産婦、産後の女性１３６名

（アンケート回答４１名）

②妊産婦の主体性を育めたか

〇継続ケア利用者及び分娩者の**100%**が、「自分の妊娠・出産に対して主体的に考えられるようになった」と回答

〇イベント参加者の**92.5%**が「自分の妊娠・出産に対して主体的に考えられるようになった」と回答

助産師さんと話すことで自分自身と向き合うことができるようになった。

お産にしっかり向き合うことができた。

助産師さんと話す中で、出産は病院や医療者に任せるものではないと気付いた。本来、産む力は兼ね備えている。

不安は0にはならないが、知識を得たり体操やヨガをしたことにより、できることはやったと思うことができた。

産院で言われた通りにすればいいと思っていたが、自分で選べることや自身の心がけや準備によって変えていけることがあるとわかった。

自分で産ませてもらうことは本当に素晴らしいことだと気づかさせて頂いた。

お産塾で教えてもらったことから、自分の身体の力を信じてみようと思えた。

子どもの成長を見ていると、自分自身も母としての責任感が育ちました。

③妊産婦の不安が軽減されている

〇継続ケア利用者及び分娩者

８７％：産前の不安が低減した

１００％：出産の不安が低減した

１００％：産後の不安が低減した

共同助産所の継続ケアが妊産婦の不安低減に貢献したことが明らかになった。

③妊産婦の不安が軽減されている

〇イベントに参加した妊産婦及び産後の女性

７４％：産前の不安が低減した

７１％：出産の不安が低減した

８０％：産後の不安が低減した

共同助産所のイベントが妊産婦及び産後の女性の不安低減に貢献したことが明らかになった。

お産に向き合うことは、自分自身に向き合うこと。

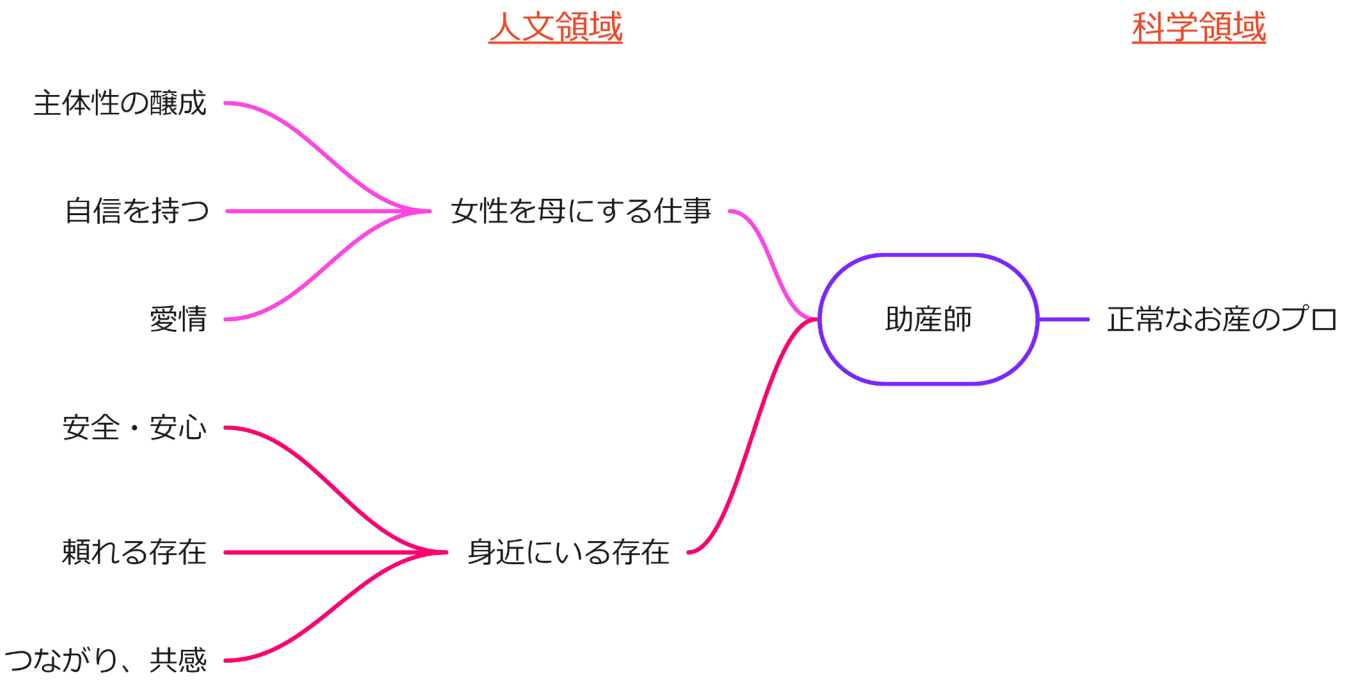
自分で考え、行動する「私」になれたのは、
「助産師」との出会いのおかげ。

そんな出会いが生まれる共同助産所が誕生した。
こんな場所が増えるために、その意義と経緯を
改めてまとめる。

４．共同助産所開設の意義と経緯

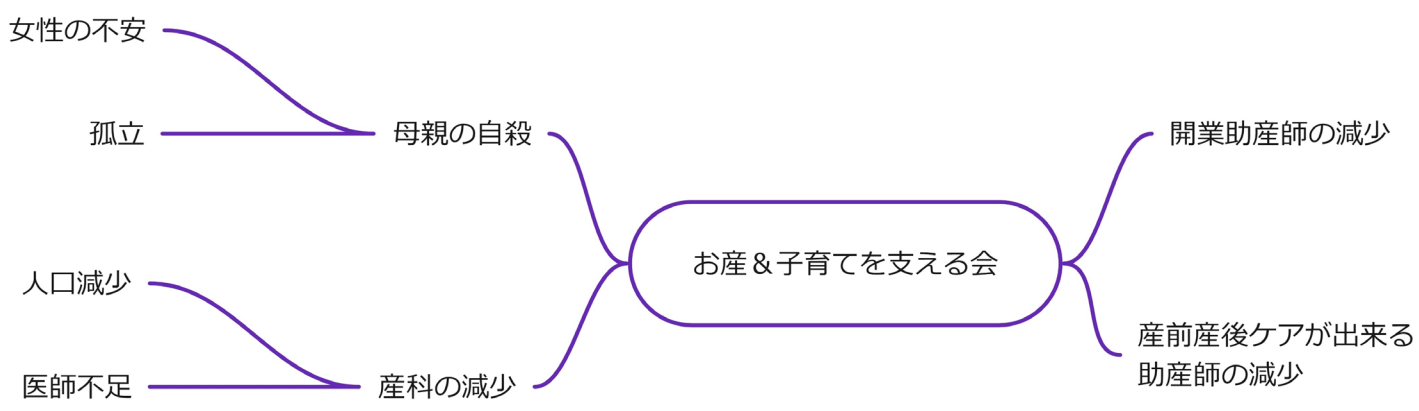
STEP 1　助産師という仕事

共同助産所を知る前に、助産師という仕事について理解しよう。
助産師の仕事は、医療が担う「科学領域」のうち「正常なお産」を扱うプロであり、かつ「人文領域」のうち**「女性を母にする仕事」**でもある。特に、**主体性を育む**という役割は、その後の女性の人生を左右する重要なものである。これらを実現するために、助産師は**女性の身近に存在**する必要がある。



STEP 2　助産師が集まる

妊産婦のほとんどが医療機関で出産しているが、2024年医師の働き方改革（医師の3交代勤務化）実現に向け医療機関の再編が進められている。また、産婦人科医の高齢化で、産院も閉鎖が進み、妊産婦を取り巻く状況は悪化する一方である。そんな中、滋賀県で孤立する母親が自殺するケースが複数発生したのが2019年であった。正常なお産を取り扱う開業助産師も高齢化等を理由に減少している。また、先のような本来の「助産師」の仕事を担える助産師も減少の一途をたどっていた。
このような背景から、正常なお産を支え、女性に寄り添える本来の助産師の力を集結し、次世代にこの重要性を伝えるべく、**「お産＆子育てを支える会」に6名の助産師**が集まった。



STEP 3　共同助産所の開設

お産＆子育てを支える会が共同助産所OSANKO（お産子の家）を開設することで下記の要素が実現している。複数のベテラン助産師が連携することで、**連携医療機関の獲得**に成功した。複数の助産師が存在することは、**女性の選択肢が増える**だけでなく、**助産師同士の学び合い**につながっている。助産所は、民家を改修することで妊産婦が安心して過ごせる場所を提供することに成功している。
産前産後ケアを実現していることから、**行政の産後ケア事業を支える存在**にもなりつつある。医療機関での産み場所が減少している滋賀県においては、**出産できる場所が増えた**ことによる効果も大きい。

＜施設整備及び医療連携＞

2021年1月1日に滋賀県の認可を受けて、助産師主導の共同助産所を開設。
開設には医療法に基づき、嘱託医療機関との連携契約を締結しなければならない。嘱託契約予定の医療機関へ複数回の打診後9月に先方から連絡があり、連携契約内容を双方で確認して、10月1日付けで正式に連携契約を締結した。その後は医療機関の認可を得るため、消防署や保健所と相談しながらスピード感をもって準備を進めた。借家の改築･配電工事、必要な医療機器･家電等の備品･消耗品の選定･購入、消防署･保健所の手続きは同時に進行。12月18日に消防用設備等･特殊消防用設備（特定小規模用自動火災報知機、火災通報装置、誘導灯、消火器設置）等の検査･点検を受けて検査に合格、12月21日に適合証明を受けた。また、12月8日に滋賀県東近江保健所へ助産所開設を申請し、12月23日検査を受け、医療法第27条の規定により使用許可された。安全管理として損害賠償責任保険、産科医療保障制度にも加入した。

＜共同助産所の運営体制＞

連携医療機関：滋賀医科大学

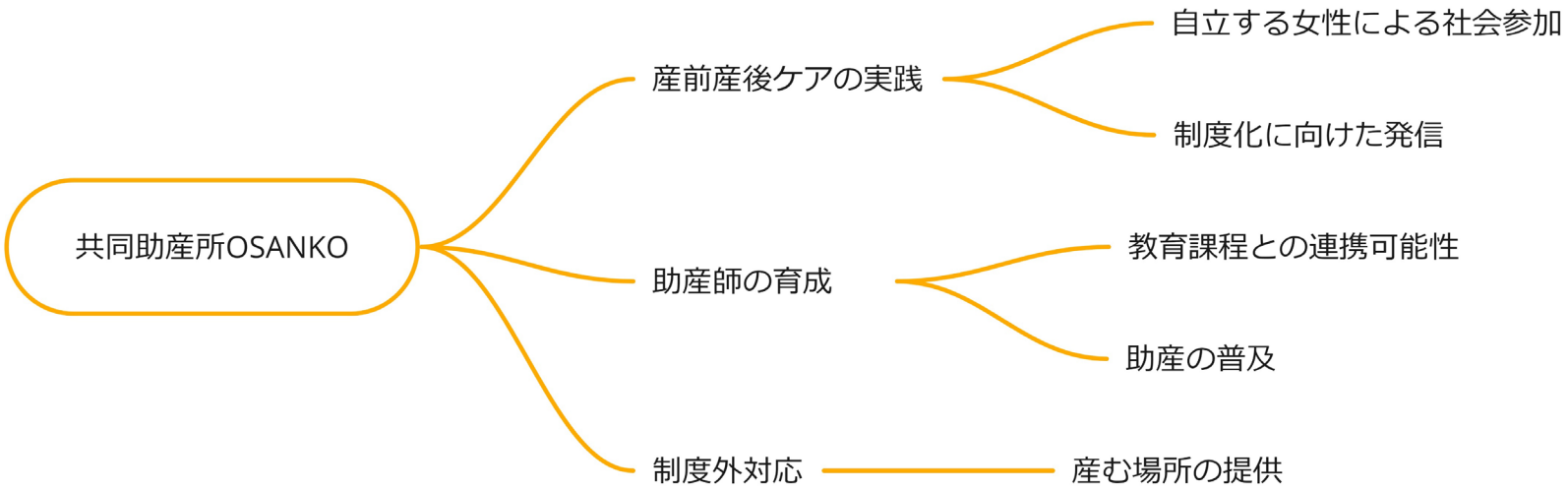
助産師：７名

施設管理責任者：斎藤　智孝

会計：東　直美

STEP４　共同助産所のこれから

共同助産所が開設されたことにより、今後期待される役割を整理する。
重要なのは、出産も含めて産前産後ケアを継続・拡大することで、主体性を持ち、自立する女性の社会参画が拡大することが期待されることである。この効果を見える化しながら、**助産師が担う産前産後ケアの制度化**を訴えていくことが大切である。
先輩助産師から**実践が学べる場としての機能**も重要である。助産師を育成する教育機関との連携や、勤務助産師の学ぶ場の提供などを通じて助産の普及に貢献したい。
共同助産所につながる女性の中でも、**公的サービスの対象とならないが課題を抱える方を受け入れていくための仕組みづくり**が必要である。



＜これから生まれる物語＞

●女性が母親となる
女性の日常に助産師が存在することにより、妊産婦はお産に向き合い、自分に向き合い、命に向き合うことが可能となる。

●自分を生きる女性がつくる地域の未来
主体的なお産を過去に経験した女性たちは、自らの命を守るだけでなく、自分以外の命にも関心を寄せる傾向がある。それは、他社への母性の醸成そのものであり、家族の単位を超えて支え合うベースとなる。コミュニティが脆弱化した現代において、助産師の存在は地域に新たなつながりを生み出し、その結果として地域に様々な公益活動が生み出されることにつながっていく。

●意思決定への参加の可能性
地域のつながりの中で、自分だけでは支えられない何かに触れる機会が増えた女性たちの中には、それが実現できる場や機会に参加したいと考えるようになることは想像に難しくない。産前産後の女性に対するサポートの考え方に、主体性の醸成が組み込まれている国においては、政治や企業への女性の社会参画が進んでいる傾向がある。今後、今回のような共同助産所の増加や助産師の普及により、日本においても女性の社会参画が進む可能性は高いと考えられる。